



竹田 英司

私にとって最後のファン感謝 Dayが、オンラインで生配信された。私は紅白戦出場に備え、前日に会場準備をした後、坂梨朋彦コーチとひそかにサーブの特訓をした。試合当日、最後にコートに呼び込まれ、選手たちと一緒に名前を呼ばれて感謝量。

紅白戦後半に井上航「監督」から交代出場を命じられ、急いでポロシャツの上にロジャーズ海選手のユニホームを着こみ、



特製Tシャツを着て、ロジャーズ選手と記念撮影
熊倉允治の両選手と記念撮影

「わが子」と試合 感謝

3本のサーブを何とか相手コート内に打って、ロジャーズ選手から「満点！」と褒められた。スパイクは気持ちが高回りして失敗したが、それもまた私らしい。航選手のリハビリ相手の時とは違い、周囲に選手がいる状況では声掛けの重要さをあらためて認識した。

最も満足したのはレシーブ。選手と重ねた対人パス練習がようやく実った。緩い無回転サーブは不規則に揺れるので、簡単そうに見えて実は返球が難しい。無事にセッターに返した瞬間、心の中でうれし涙を流した。最後は回転レシーブまで決めることができ、一人ではできないバレーボールをかわい「わが子」たちと楽しんで、30年遅れの青春を存分に味わった。

退部者あいさつの後、人生初の胸上げを大きな「わが子」たちにしてもらった。私が選手のために奔走、献身して愛情を注いでこられたのは、応援してくださった方々のおかげである。お礼の証しに、いつか本稿を出版して皆さまにお届けしたい。

(Jリーグマネジャー)